

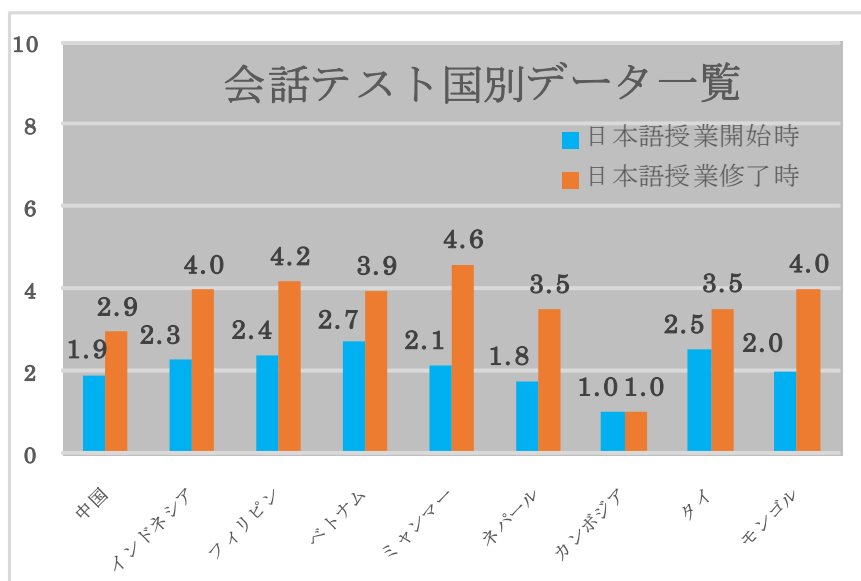


実習生の皆さんが  
よく利用する  
駅前商業施設の  
クリスマス  
イルミネーション

株式会社きぼう国際外語学院  
企画・編集 澁谷 健司

早いもので、今年もあつと言う間に12月。先月に比べて、朝夕の冷え込みもグッと厳しくなり、「さむいですね・・・」「はい、とてもさむいです」とのやり取りが、あちこちで聞こえてくるようになりました。厳し寒さの中ですが、インフルエンザにかかってしまったり、風邪を引いてしまったりする実習生もなく、皆さん元気に生活しています。今年も残り僅かとなりましたが、実習生の皆さんが、元気で楽しく、「きぼう」を持って日本語学習に励めるよう、スタッフ一同、全力でサポートしていきたいと思っております。1年間大変お世話になりました。来年もどうぞよろしくお願いいたします。

## あじけんスコープ Vol.28 ～国別実習生の会話力～



今回のあじけんスコープは、実習生の皆さんの会話力に焦点を当ててみました。データは日本語講習開始時と終了時に行なっている会話テストの結果（A～E-の6段階評価）を点数（10点満）に換算して、本校の日本語講習での会話力の伸び率をグラフ化してみました。また、出身国別の会話力も比較出来るようになっておりますので、実習生の皆さんの会話力の傾向を把握する一助となれば幸いです。

### 今日の中羽片



ポーズを決める李さん



カンフーの形を披露する李さん

今月の実習生は、中国人実習生の李陳臣（リ チンシン）さんです。李さんの特技は、カンフー（中国拳法）。以前軍隊に在籍（2002年～2007年）していた時に学び、その後7年間習い続けてきたそうです。カンフーと言えば中国文化の代表格、世界的にも有名ですが、中国人実習生で、特技はカンフーと話してくれたのは李さんが初めて。折角なので、教室でその腕前を披露してもらおうと、切れのある素早い動きは、迫力満点。クラスメイトからも拍手喝采が起りました。

## ベトナム見聞録！



今月のあじけん流日本語授業は、本校でのより良い日本語指導方法を探るために行なわれたベトナムの日本語学校ならびに実習生の実家訪問の様子を きぼう国際外語学院日本語講師栗又由利子が「日本語講師の感じたベトナム」としてお届けさせていただきます。

始めに首都ハノイを訪れました。その日から急に暑くなったということでしたが、過ごしやすい気候でした。ハノイ到着後すぐに、実習生送出機関を訪れましたが、通訳は大学で日本語を学んだという女性と、実習生として来日経験のある女性でした。「ベトナムは、元気で、働き者の女性が多い」私のベトナムの第一印象です。実習生の実家には、実習生と一緒に訪問しました。ハノイから車で2時間半。車が通れるのかと思うような道を進み、バナナの林を抜けると、そこに実習生の自宅がありました。豚、鶏、そして犬（食用）がいて、隣近所から親戚のみなさんが集まり、ひと昔前の日本を彷彿させるものがありました。農業を営みにしているということですが、閑散期には「ライスペーパー」を作っているとのこと。実習生の夢は、「日本で貯めたお金で、このライスペーパーの機械を最新にしたい」ということでした。日本の同じ歳の若者も同じことが言えるだろうかと考えてしまい、思わずお母さんの手を強く握ってしまいました。

次に訪れたホーチミン市は、ハノイよりさらに活気にあふれ、世界各国から観光客が訪れていました。こちらで訪問した送出機関も通訳は、日本での技能実習経験者。今年の9月に戻ったばかりという方も通訳として活躍されていました。日本でしっかり学んだ実習生にはこんな道もあるんだなあと、日本で学ぶ実習生の皆さんの顔が思い浮かびました。ホーチミン市での実家訪問では、ゴムの木林の中に建つ自宅を訪問。ここでは「赤土」で米が育たないそうです。こちらの実習生は、すでに日本で実習をしている実習生。ご両親は、息子さんを懐かしく思いながら、息子が帰ってくるのを楽しみにしている様子でした。

今回のこの貴重な経験で実習生の皆さんの後ろに隠れている「希望」や「夢」、そしてご家族の「思い」を感じることができました。今後も実習生のみなさんの「きぼう」をかなえるため努力していきたく思いますので、引き続き本校の日本語指導に対するご理解・ご協力、どうぞよろしくお願いいたします。



ここでライスペーパーを作っています。お米の粉を溶いた水を、固いごさのような物に伸ばし、天日干しをします。その薄く伸ばす機械を新しくしたいそうです。



ご両親、伯父さん、父方のおばあさん、母方のおばあさん、お姉さん、従兄弟などたくさんの親戚が集まりました。



風通しが良く、天井が高い家でした。敷地内には、おばあちゃんたちが住む離れもありました。



食用の犬です。隣には、豚が飼われており、子豚も育っていました。庭には鶏が放し飼いになっていました。



ホーチミン市街から車で約2時間。舗装されている脇の、赤土の道を抜けると、実習生の実家がありました。



ゴムの木林の中にある縦に長い実習生の実家。お父さんが出迎えてくれました。



ゴムの木林。ゴム工場がこの林の中に、点々と存在していました。



ホーチミンで通訳してくれたタンさん。技能実習経験者です。